

男女共同参画標語
最優秀賞
「取手なら
自分らしく輝ける」
菅谷 真白さん 取手第二中学校(当時)

44号
平成30年11月1日発行

風

優秀賞
「認め合い つないだ手から 開く未来」
八城 立樹さん 取手第一中学校(当時)
「この社会 一人一人が 主人公」
石田 瞳さん 取手第一中学校(当時)

女性が輝く社会は、男が輝く社会をつくる社会

「...であるべき」の殻から一歩踏み出すために

女性だけでは
輝けません!!

男女共同参画、ワーク
ライフバランス(仕事と
生活の両立)、女性活躍推
進法等々、生き方の根本
に関わる取り組みが次々
に進められています。

ところで、これらの取り
組みは女性の問題と思っ
ていませんか? 女性が
社会で活躍する環境整備
に焦点が当てられること
が多いため、自分には関
係ないと感じてきた男性
も少なくないのでは...

でも、それは間違いで
す。これまで社会の中軸
を担ってきた男性たちの
意識と生活スタイルが変
わらなければ男女共同参
画はありません。そし
て、それは男性がより暮
らしやすくなる社会でも
あります。

男らしく生きることは
幸せですか?

平成26年版男女共同参
画白書によれば、幸福度
と生活満足度は全体に女
性が男性を上回る状況が
続いています。特にその
差が顕著なのは、配偶者
と離別した場合の幸福度
の差。グラフは載せてい
ませんが、退職後の幸福
度においても女性と男性
では落差があります。

取手市の取り組みと
始めの一歩

的な役割分担意識との関
連性が分析されています。
たとえば、「男は外で稼
ぐ」「仕事が第一」といつ
た価値観に縛られて生きて
きた男性は、定年を迎え仕
事をやめた時に居場所や生
きがいを見失う恐れがあり
ます。

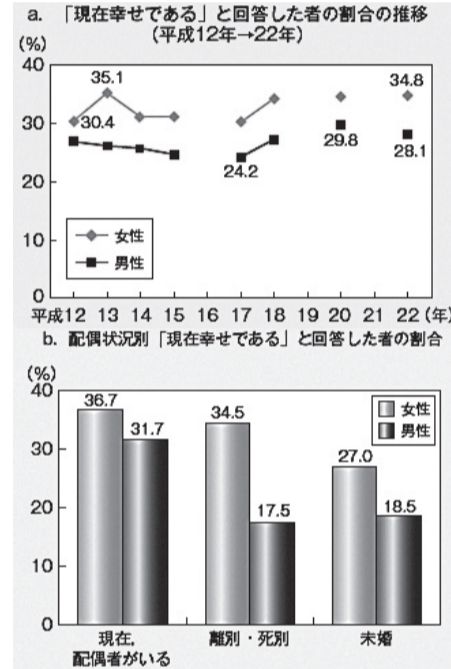
このような固定観念を強
く持つ人は、家事などの日
常生活の依存度が高かった
り、「悩みを相談する」「弱
音を吐く」ことを潔しとし
ない傾向があるため、知ら
ず知らずのうちに生き方の
選択肢を狭める要因や重荷
になっているのかもしれま
せん。

人生百年と言われる時
代。高齢化社会を楽しく
生き抜くためのプランニ
ングに遅すぎることはあ
りません。人生のリスタ
ーも変革も、今の生き方
を持続していくことも自
分自身の選択です。



(下園)

幸福度が高い男女の特徴(平成22年)
～平成26年版男女共同参画白書より～



笑ひ、男も女も痛す

落語に学ぶ人生の知恵

第22回女と男ともに輝く
とりでの集いが11月11
日(日)に開催されます。
今年のテーマは、『笑って
輝く』。仕事も育児も人
生も共に笑って楽しもう、
ということ、笑いのプ
ロ、落語家さんをお招き
します。

お断りしてくださるの
は、立川志のぼんさん。志
のぼんさんは石岡市出身
筑波大学大学院芸術研究
科修了という異色の経歴
を持つ落語家です。落語
立川流に属し、平成25年
に二ツ目に昇進しました。
二ツ目というのは、落語
界の階級の一つで、真打
ちに次ぐ位置です。



立川志のぼんさん
(撮影 橋蓮二)

落語は人生の教科書

落語には、人生の機微、
知恵、教訓がたくさん詰
まっています。

たとえば、辛いことが
あったとき、大きな失敗
をしたとき、落語の登場
人物たちは、機転や粋な
計らいでそれらを乗り越
えようとします。その行
動が滑稽だったり、見当
違いだったりするために、
私たちは大笑いし、そこ
にある人情や思いにほろ
りとし、我が身に振り返
ることができるようです。

大好評!
取手聖徳女子吹奏楽部の
パフォーマン

ところで、落語は江戸
の庶民の暮らしを題材に
していますが、夫婦の絆
やご近所との助け合いな
ど人と人のつながり、物
の見方、捉え方で変わる人
生の喜怒哀楽といった現
代にも通じるテーマが盛
り込まれています。熊さ
ん八つつあんが今の社会
に生きていたら、どんな
行動を取り、どんな顛末
になるのか。時代や社会
の変化で、人との関係や
生き方はどう変わるのか、
あるいは、変わらないの
か。興味深いところです。

とりでの集いは、若き
才能にも注目しています。
今回、ピアノ演奏でその
才能を披露してくれるの
は、テレビ朝日の「天才
キッズ全員集合」に出演
し、その道のプロフェッ
ショナルを相手に驚異の
演奏を披露した佐藤大武
さん。現在、取手第一中
学校の三年生です。5歳
でピアノを習い、9歳の
ときにお父さんとユニッ
ト・タムタムパバを結成。
10歳の時の初ライブ以降、
各地のジャズフェス等に
出演するなど着実にキャ
リアを積んでいます。と
くに、ピアノアレンジ(編
曲)は天才的と評判で、
今回のステージでもその
レパートリーの一部を魅
せてくれます。

天才キッズの
ピアノ演奏も必聴、必見!

アトラクション諸々

会場では、ガールスカウ
トによる無料のカフェ・ク
ラフトコーナーが用意され
ています。また、恒例の打
ちたて蕎麦の試食、各種販
売(花・野菜・クローンヌ
特製パン)も予定されてい
ます。

笑いは心の浄化。免疫力
を高め、健康効果もあると
言います。ぜひご参加くだ
さい。

(下園)

第22回
女と男ともに輝く
とりで集い

11月11日(日) 12時半開場
取手市福祉交流センター
(取手市役所敷地内)

※詳細は、取手市ホームペ
ージ、市内公共施設でのポス
ターチラシでご案内してい
ます。

料理を通して意識改革

「男のための料理教室」(戸頭公民館)

月に一回戸頭公民館の二階料理室に集い、「男のための料理教室」が開かれています。「男のための料理教室」にどうして入会し、料理を作ることによってどのように意識が変わったのか、会員のみなさんにお話を伺いました。

「男のための料理教室」は、講師の米村文子先生を囲み13人の会員で構成されています。この日のメニューは、「夏野菜と鯖缶のカレー」「玉葱と鯖缶のサラダ」「紅茶のゼリー」です。午前10時から午後1時迄の夕食も含め3時間の料理教室のスタートです。会員一人一人はレシピを見ながら、自主的に役割分担をし料理に取りかかります。各テーブルを米村先生が回り、切り方や手順・火の通り加減などの確認にアドバイスをします。「椎茸の戻し汁を出汁にする」「玉葱をさらした水をカレーに入れる」「鯖缶汁をドレッシングにする」な



米村先生を囲んで教室のみなさん

「男のための料理教室」へは市の広報紙で知った人や会員からの誘いで入会した人が多く、その動機は「家族の勧めもあり退職して料理を作る必要性を感じた」「地域の方々と知り合う機会を求めた」ことなどが挙げられました。自ら行動を起こすことの大切さが語られました。また、「料理教室に入会後どのように意識が変わりましたか」の質問には「後片付けも苦にならなくなった」「買い物から後片付けまでが料理と思うようになった」「手順を考

えながら料理をすることで認知症予防になっていく」と、さらに「会員相互の交流が拡大し、料理教室以外の活動の輪が広がった」という声もありました。

活動の輪の広がり

料理教室の活動を充実させるために、会長の脇本忠順さんは毎年レシピ集を作成しています。そこには年間に作成した料理作品の写真、目次、レシピが収められています。とても貴重な、そしてちよつと羨ましいお話でした。



(落合)

男のための料理教室では仲間・新入会員を募集しています。問合せは脇本会長まで
TEL 78-4162



脇本会長レシピ集を手に

女性キャリア教育

～可能性を追求して人生を楽しく豊かにするために～

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校は「女性キャリア」プログラムを八年前から展開しています。今回このプログラムの授業を六年間受けてきた高校三年生の寺崎さん、鈴木さん、木村さんの三人と、指導者の後藤先生、酒井先生のお二人に話を伺いました。



左から、酒井先生、鈴木さん、木村さん、寺崎さん、後藤先生

女性キャリアプログラム ことどのような授業?

このプログラムは、文部科学大臣より女子教育プログラムとしては全国唯一の「教育課程特例校」の指定を受けて、実施されています。週2時間の総合的な学習の時間を利用し、人間

関係づくり、社会生活におけるルール、自分を知る力や「働くこと」の意義など多岐にわたり学習します。卒業後の人生を自分らしく自分の特性を生かした進路・職業選択ができるよう、人間力を高め、社会で生きていくための力を付けるためのものです。

プログラムを実際に受講して感じたことは?

Q 実際に受講してきた3人の全体の感想は? 「職場体験では自分の進路を考え、若い先生の話を聞く授業では、子育てや仕事に対するやりがいなどが聞き、視野を広げることができました。これからの女性が活躍する時代に自

分がどうすればよいかを考え、心構えを学ぶ授業でした」
Q 具体的に印象に残った授業は? 「中学3年の時、演劇を通してみんなで協力して一つのものを作り上げるこの大切さを学び、自分の考えを発表し、相手に伝わったことで自分の自信にもつながることを学びました」 「高校2年の夏休みに経験したインターンシップで、働く素敵な女性たちを身近に見ることができ、授業で培ったスキルを活かすこともできたことです」 「『女性と社会』の授業の中で、日本の女性を取り巻く社会制度など学び、女性管理職の多い海外と比べてまだ遅れていると感じました」



キャリア教育の授業の様子

Q 同世代の人に薦めたい授業は?

「中学生対象のキツザニア体験、インターンシップでの実体験や、ゼミ内でディスカッションや発表を繰り返して、自分の考えを深めて論文にしたことなどです。また、先生たち社会に出ていらっしゃる方々が自分たちと同年代のころ悩んでいたことやその時期何

これまでの成果と これからの課題

「女性キャリアプログラムは教科の授業と違い、校内でもはじめは賛同を得にくかったのですが、今では生徒が社会スキル、心のコントロール、ストレス対応能力を身に付け、自分の考えをきちんと伝えられるなどいろいろな成果が見えてきました。これからの社会を引っ張って行く女性に育ててほしい」と先生はおっしゃっていました。中、高生の時期に自分の適性を知り、将来に向けて能力を活かす訓練をすることや、広い目で社会を

をしていたかななどの話はとても参考になりました」



(河口)

編集後記

取手市在住26年、地域事情には疎い一市民でしたが、今号から編集協力員になりました。よろしくお願ひします。

取材初日は、「男のための料理教室」。真摯に学ぶ姿勢と講師の熱意、試食の笑顔に、羨ましさを感じました。二日目は、取手聖徳女子中学校・高等学校の「女性キャリアプログラム」。尋ねた生徒は、学んだ成果や将来を見据えた仕事・結婚・出産・育児までの人生設計を、明るく語ってくれました。未知の「取手」の内面を紹介できればと考えています。

(糸井)

発行日 平成30年11月1日
編集発行 取手市 市民協働課
下園淳子、河口優子、落合伊佐男、糸井弘
〒302-8585 取手市寺田5139
TEL 0297-74-2141
FAX 0297-73-5995
H・P http://www.city.toriidebaraki.jp/
Eメール s-shien@city.toriidebaraki.jp
表紙絵 有本 唯